



ほうじょうときより

北条時頼 は、どんな人だったの



北条氏の独裁体制の基礎を固めるとともに、御家人・民衆の保護に努力した人だよ。

北条時頼は1227年に、北条時氏（泰時の長男）の次男として生まれました。4歳で父が亡くなった後、母松下禅尼から、質素・儉約を教えられながら育ちました。1246年、20歳で第5代執権になりました。

北条氏の独裁体制の基礎を固めた

執権になってすぐ、時頼をたおして執権の職をうばう計画を進めていた名越光時（北条泰時のおい）を流刑にし、計画に加わっていた前将軍（第4代将軍）九条頼経を、京都に追放しました。1247年には、頼朝時代からの有力な御家人だった三浦氏・千葉氏をほろぼして、北条氏の独裁体制の基礎を固めました。

土地に関する裁判を、公正に行うことに努力した

1249年、土地に関する裁判を公正に行い、御家人を保護するために、「引付制度」を設けました。これは、評定衆が判決を決める前に、新しく設けた引付衆が相談し、判決の案をつくる制度です。また、誤った判決で負けた人を救う制度や、うったえの手続きが不十分だった人を救う制度も設けました。30歳で引退して出家しましたが、政治の実権をにぎったままで、幕府の政治を陰で動かしました。1263年、鎌倉の最明寺で、37歳で病死しました。

水戸黄門と同じように、諸国を回った伝説がある

時頼には、水戸黄門と同じように、引退した後、姿を変えて諸国を見て回り、良い行いをした人をほめ、悪い行いをした人をばっしたという伝説があります。これは時頼が、地頭が農民・民衆を苦しめないように取りしまったことなどが、良い政治を行った人だと伝えられて生まれた、つくり話のようです。